

# 第31回 夏休み昆虫研究大賞 -2021-

## 入選作品紹介

掲載した写真は  
作品の一部です

Grand prize

**大賞** 該当なし 惜しくも 2021 年は選出されませんでした

Semi-grand prize

**準大賞** 1名

準大賞受賞者に贈られる  
クリスタルたて



標本部門 「好蟻性生物  
～アリスアブの飼育観察～」

加藤 温人 さん (中学校クラス)



【審査員コメントより】 5 年間にわたって好蟻性生物に着目して観察してきたことに敬意を表します。小さい昆虫を採集し同定し標本にする技術や、アリスアブの飼育技術もすごいと思いました。(添付された動画の) アリスアブの羽化シーンはじめて見ました。

産地: Yamanashi  
Ninasaki, Yunggi daisa Au  
No.21 Togeohisaabu(♀)  
羽化日: 2021年4月22日  
採集者: Atsuto Kato



【審査員コメントより】 アリスアブの羽化おめでとう！なかなか、管理に失敗して成虫を見れないことも多いですが、動画にまで残しているのは凄いです。

Gold prize

**金賞** 8名

金賞受賞者に贈られる  
ゴールデンたて



標本部門 「東京のチョウ標本」

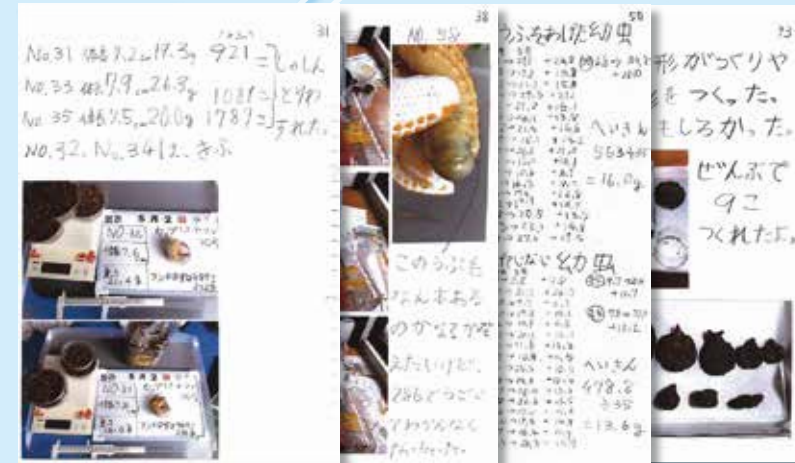
仁地 悠人さん (小学校高学年クラス)



【審査員コメントより】 東京の蝶を、これだけ多くの種類集めたことは、素晴らしいと思います。世田谷区のアカシジミすごいですね。貴重なデータになると思います。聖蹟桜ヶ丘のウラゴマダラシジミ、せっかく発生地があったのに工事でなくなってしまったとのこと。残念です。今回採集された個体は、その場所にウラゴマダラシジミがくらしていた事実を示す貴重な証拠になります。とても大事な標本ですので、大切にしてください。

研究論文 「カブちゃんとおぼくの成長きろく(2)」

矢野 翔大さん (小学校低学年クラス)



【審査員コメントより】 小さい時から続けているカブトムシの飼育観察の継続と、家に昆虫がいる生活を記録した大作。質・量ともに小学校一年生の作品とは思えない内容の濃い作品と思います。カブトムシの幼虫をたくさん飼育する中で、いろいろな疑問を自分で見つけだし、実験によって答えを探していく姿勢は素晴らしいです。25万個にも及ぶ幼虫の糞を計数したことのある人は他にあまりいないのでは、と思います。実験内容がユニークだけでなく文章力も素晴らしいです。文学部門でも良いですね。

研究論文 「ツダナナフシが出す防ぎょ液のマタタビこう果に関する研究」

矢後 里佳奈さん (小学校高学年クラス)



【審査員コメントより】 たまたま目撃したネコの行動からツダナナフシの防ぎょ液の効果に想像力をはたらかせるくだりは、一篇のミステリー小説の導入を見るようで、興味をそそります。防ぎょ液を出さない他のナナフシ類との比較実験も理にかなっています。実験がしっかり組み立てられているので、実験結果の解釈が明瞭。自分のために昆虫が生産する物質を、哺乳類も利用しているという、物質の多面的な機能の考察がよい。自然界での物質の働きを考える際、先入観を捨ててかからねばならないことを再認識させる。

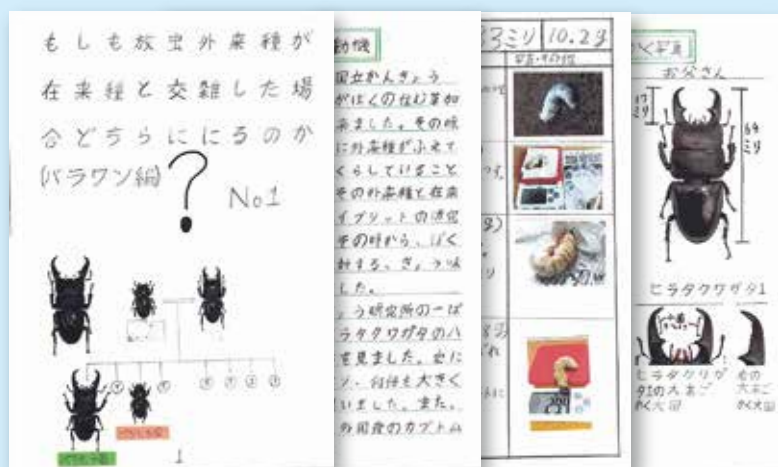


# 第31回 夏休み昆虫研究大賞 -2021- 入選作品紹介



始まりはここから？第31回作品募集チラシ

## 研究論文「もしも放虫外来種が在来種と交雑した場合どちらに似るのか？ No.1」 吉田 真山さん (小学校高学年クラス)



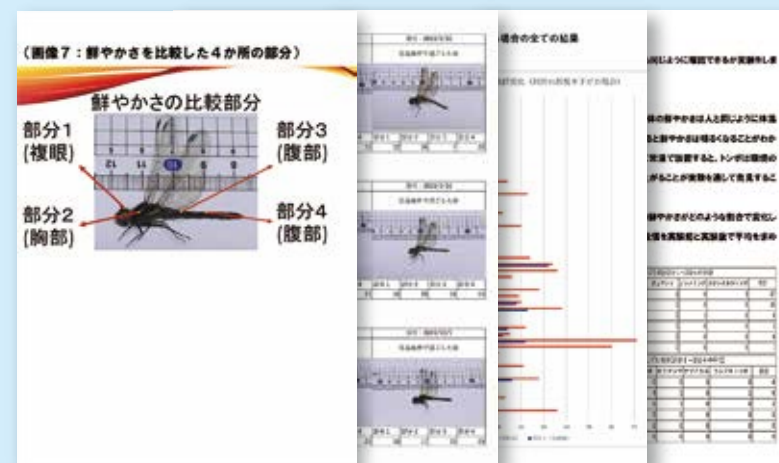
【審査員コメントより】 タイトルを見た時に結果が知りたいと思いました。また、しっかり累代飼育を成功させている点もすげえ。今年も外来生物に注目してくれてうれしく思います。クワガタムシが逃げると、在来の個体群との雑交が起ってしまう危険性を、こうした交配実験の結果は教えてくれますね。不明瞭なヒラタクワガタとパラワンオオヒラタクワガタの分類ですが、ハイブリッド間で世代を繰り返すことができれば、同種とはっきり言えると思います。はたして3世代目へつなげられるのか。研究の進展を待ちます。

## 研究論文「ライトトラップ大作戦6～ドウガネブイブイ VS アオドウガネ FINAL～」 中島 喜之介さん (中学校クラス)



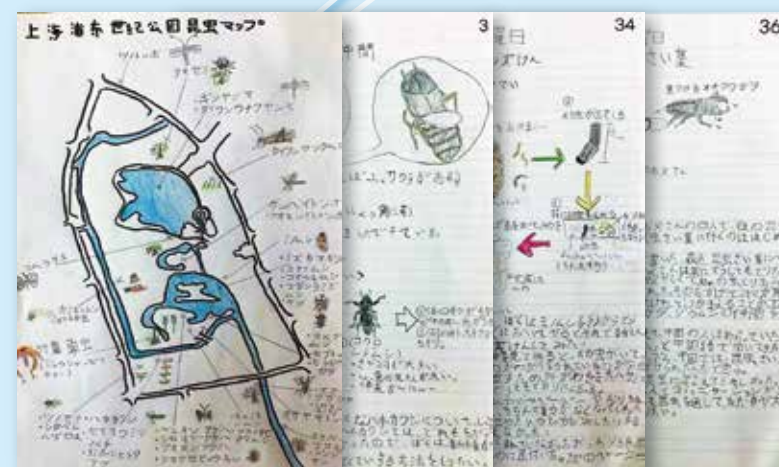
【審査員コメントより】 6年越しの定点夜間採集のデータ収集、大変すばらしいです。お疲れ様。ドウガネブイブイとアオドウガネの個体数の推移が感覚ではなく実データで示されているので説得力があります。この研究はカブトムシから始まったものの、カブトムシ以外のデータも記録していったことでドウガネブイブイとアオドウガネの研究に発展。理想的な研究の進め方だと思います。同所的に得られる2種の標本を並べて示したのも大変良かったと思います。高校へ進学しても息の長い研究を続けてください。

## 研究論文「トンボの体色と温度の関係～トンボも私たち人と同じように気温 松戸市立第六中学校科学部 (中学校クラス) によって顔色・体の色は変わるのか～」



【審査員コメントより】 3人で3年間、多くの種類でデータを集め、頑張ってまとめましたね。とても読みごたえがありました。あざやかさを定量化できたことで、データの分析が客観的になり説得力のある作品に仕上がっています。実験操作も面白く、論文の書き方も判りやすい。気温が上がると鮮やかさが増し、気温が下がると色がくすむ。おもしろい事実です。呼吸数も人間の心拍数と同じような値なのも興味深いです。運動量で色が変わるのか。体表の何が変化しているのか。次のテーマが次々に浮かんでいきますね。

## 文学部門「ぼくの上海昆虫記 2021」 阿南 空さん (小学校低学年クラス)



【審査員コメントより】 絵もうまいし文章もすばらしい。とりわけ昆虫の解説だけに終わらず、人とのコミュニケーションの話に展開するあたりに感動しました。日本と中国との文化・国民性の相違といった人の姿も伝わります。上海浦東世紀公園という、東京でいうところの清澄庭園くらいのもおどろきです。疑問に対して章立てて解き明かしたり、実験をしたり、専門家に問い合わせたりと、優れた科学の読み物ですが、そこにとどまらず「文学部門」に値する内容になっています。

## 美術部門「フタスジチョウ」 三上 咲耶さん (小学校高学年クラス)

【審査員コメントより】 これは素敵な絵だなあ。背景の複雑な緑をボカしたことで、フタスジチョウと花がより浮き立ちました。翅の裏表の色調の違いや、翔び古した個体のリアルなスレ感、花のモフモフの先端の光のあたり具合など、細かいところもとても丁寧に描けています。また戦場ヶ原に生息する本種の特徴が翅に出ています。初夏に羽化してから10日くらい飛んだ個体でしょうか。華やかなホザキシモツケにとまる姿に哀愁を感じます。常に愛情をもってチョウと接している人だからこそ書ける絵だと思います。柔らかな美しさで満ちた世界。こうしたシリーズで色々な蝶を描いてもらいたいです。





第31回 夏休み昆虫研究大賞 -2021- **入選作品紹介**  
**Silver prize**  
**銀賞** 9名

掲載した論文などの写真は  
作品の一部です



銀賞受賞者に贈られる銀メダル



標本部門「個性豊かなギフチョウたち」  
**山中 二葉さん** (中学校クラス)



【審査員コメントより】

ギフチョウの魅力は、地域によって模様に変化が出たり、形態に特徴が出たりすることですね。標本にすると気づかなかった違いがいっぱい見えてきたと思います。

研究論文「カマキリ大研究  
 ~立体視の謎と益虫としての活用~」  
**笠原 翔さん** (小学校高学年クラス)



【審査員コメントより】

上手に計画を考えて、すっきり判りやすく書かれています。カマキリは前方 45度にいる獲物を積極的に狙うことがよく判りました。視覚見本については色や形など、餌にもっと似せると、どういう昆虫が好きなのかということも見えてくるかもしれませんね。

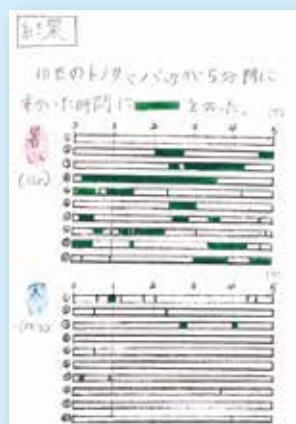
研究論文「トンボをおいかけたなつやすみ」  
**山田 創介さん** (小学校低学年クラス)



【審査員コメントより】

色々なトンボを追いかけた楽しさが伝わってくる作品です。手描きのトンボ図鑑もいいですね。博物館で学んだ知識を活用し時間に注目して成果をあげたのがよかったです。次はアカトンボ類の種類もしらべてみよう。

研究論文「トノサマバッタの研究パート4  
 ~温度が変わると動きや成長の早さは変わるのか~」  
**船木 壮太さん** (小学校高学年クラス)

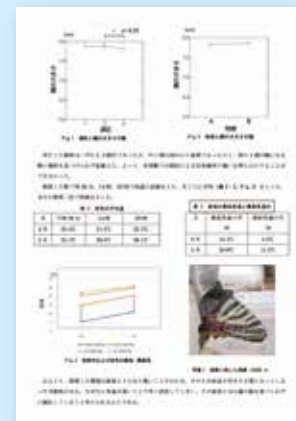


【審査員コメントより】

息の長いトノサマバッタ研究。グラフの表示が見やすく、工夫の跡がうかがえます。トノサマバッタの動きや成長について、色々な可能性を考えて、実験して説明し、一個の結果を得ると、次の実験アイデアが出てくるのがすごいね！

研究論文「ギフチョウ幼虫の  
 集合効果について」

**青木 航太さん** (中学校クラス)



【審査員コメントより】

仮説の立て方、ベースとなる文献の探索、実験素材の準備、実験環境の設定、実験の遂行、実験経緯の記録、実験結果の評価、全ての過程にわたって合理的かつ論理的な思考方法が徹底されており、自然科学を志すものとして素晴らしい。

写真部門「タンポポでのきゅうみつ」  
**仁地 悠人さん** (小学校高学年クラス)



【審査員コメントより】

黄色い花に、ヒメギフチョウの黒と黄色の模様が良く映えています。早春の景色を切り取ったような写真。ピンと目が口吻だけでなく全体に合っています。採りたい昆虫を目のあたりにしながら、シャッターを押すのは勇気と決断がいるでしょう。そんな中、構図やピントに冷静さがうかがえます。

美術部門「ゴキブリはキレイだ」

**久保田 章斗さん** (小学校低学年クラス)



【審査員コメントより】

脚のトゲトゲや、翅の毛まで、丁寧に書かれています。光と陰の関係もいいですね。白い点描がゴキブリのテクテク感をよりリアルに表現できています。これだけリアルなのに、画の全体に「清潔感」があふれているという奇跡。

研究論文「カップルズ」(組み写真)

**中村 寧々さん** (小学校高学年クラス)



【審査員コメントより】

色々なカップルの姿を、とてもきれいに映しています。写真それぞれのアングルも実在的。昆虫の種類によって、カップルの形がちがうことが、こう並べてみるとわかりますね。オスとメスで色が違うイトトンボなんてカップルで映してこそその美しさも現れます。カップル写真は是非この先もシリーズ化してほしいな。

美術部門「昆虫界の宝石-ニジイロクワガタ-」

**笠原 翔さん** (小学校高学年クラス)



【審査員コメントより】脚の先が画面に入りきらない大迫力。ニジイロクワガタの複雑な輝きを懸命にとらえようとした跡がうかがえます。角度によって変わる色をそれぞれ描いてみるのも面白そうです。





## 第31回 夏休み昆虫研究大賞 -2021- 入選作品紹介

### Bronze prize

# 銅賞 22名

銅賞受賞者に贈られる銅メダル



- 標本部門  
「思い出つまった昆虫達」  
川口 豪太さん (中学校クラス)
- 研究論文  
「ノムラホイホイをつかって  
ぞう木林に生そくする虫を調べる研究」  
村松 航世さん (小学校低学年クラス)
- 「ナイターてんとうの虫たち in たじま」  
小林 瞭仁さん (小学校低学年クラス)
- 「ナミアゲハチョウさなぎ色変わり大作戦」  
佐原 虹さん (小学校高学年クラス)
- 「昆虫の研究 3~クワガタが好きな色~」  
石井 多維知さん (小学校高学年クラス)
- 「糖みつトラップ液と野菜ジューストラップ液  
に飛んできたチョウ類の比かく」  
柴原 咲月さん (小学校高学年クラス)
- 「私の町の昆虫&羽観察」  
黒田 乙羽さん (小学校高学年クラス)
- 「カメムシの研究 採集と観察  
ぼくの4年目」  
大下 耕平さん (小学校高学年クラス)
- 「飼育下のヒメゲンゴロウの生態」  
森山 泰成さん (中学校クラス)
- 「アオスジアゲハと気象条件」  
東 浩史さん (中学校クラス)
- 「カナブンの習性と気候と木の環境の関係 (3)」  
松原 大知さん (中学校クラス)

- 文学部門  
「こん虫 GO」  
田上 周さん (小学校低学年クラス)
- 「セミと僕のひと時」  
河村 侑飛さん (小学校低学年クラス)
- 「ぼくの夏休み 2020」  
野口 慶さん (小学校高学年クラス)
- 「ぼくの夏休み 2020」  
野口 蓮さん (中学校クラス)
- 美術部門  
「夕暮れ時の蜻蜓たち」  
西本 明道さん (小学校低学年クラス)
- 「オオカマキリ」  
石森 朔仁さん (小学校低学年クラス)
- 「ブナの新芽とルリクワガタ」  
鏑木 邦賢さん (小学校高学年クラス)
- 「草に擬態するオオカマキリ」  
喜多 悠介さん (小学校高学年クラス)
- 「トンボの乱舞」  
関口 宗平さん (小学校高学年クラス)
- 「Fireworks of my butterflies」  
山中 二葉さん (中学校クラス)
- 写真部門  
「ヒメスズメバチ VS オオジョロウグモ」  
関口 修平さん (小学校低学年クラス)

## 審査員特別賞

夏休み昆虫研究大賞の各賞は審査員の合議により決定されますが、決定した賞について入選選外の別なく、審査員個人がより上位の賞に値すると強く感じたり、今後に大きな期待が持てると評価した作品は、賞賛と激励の意味を込めて審査員が名前を冠した個人賞を贈ることができます。また同じ作品に複数の審査員から別に賞が贈られることもあります。今回は7人の審査員から、13作品に特別賞が贈られました。内容は次の通りです。

- 泉 麻人 賞  
文学部門  
「ぼくの上海昆虫記 2021」  
阿南 空さん (小学校低学年クラス)
- 水生昆虫得意技レース  
鏑木 邦賢さん (小学校高学年クラス)
- 木村 義志 賞  
研究論文  
「みぢかなところにいる昆虫たち」  
高橋 優晴さん (小学校低学年クラス)
- 美術部門  
「草に擬態するオオカマキリ」  
喜多 悠介さん (小学校高学年クラス)
- グループ多摩虫 賞\*  
研究論文  
「ツダナナフシが出す防ぎょ液の  
マタタビこう果に関する研究」  
矢後 里佳奈さん (小学校高学年クラス)
- 文学部門  
「こん虫 GO」  
田上 周さん (小学校低学年クラス)
- 「ぼくの夏休み 2020」  
野口 蓮さん (中学校クラス)
- 坂本 洋典 賞  
研究論文  
「トンボの体色と温度の関係  
~トンボも私たち人と同じように気温によって  
顔色・体の色は変わるのか~」  
松戸市立第六中科学部 (中学校クラス)
- 文学部門  
「ぼくの上海昆虫記 2021」  
阿南 空さん (小学校低学年クラス)
- 佐々木 望 賞  
「カナブンの習性と気候と木の環境の関係 (3)」  
石森 朔仁さん (中学校クラス)
- 長畑 直和 賞  
標本部門  
「思い出つまった昆虫達」  
川口 豪太さん (中学校クラス)
- 美術部門  
「オオカマキリ」  
石森 朔仁さん (小学校低学年クラス)
- 「ブナの新芽とルリクワガタ」  
鏑木 邦賢さん (小学校高学年クラス)
- やくみつる 賞  
美術部門  
「フタスジチョウ」  
三上 咲耶さん (小学校高学年クラス)
- 写真部門  
「カップルズ」  
中村 寧々さん (小学校高学年クラス)



\*昆虫愛好家団体「グループ多摩虫」からは複数の専門家が審査に参加しておられるのでグループとして賞を出すことになった。